

# 近江商人と節句人形

近江八幡市は、近江商人の発祥の地といわれています。

豊臣秀次の時代に築かれた八幡山城下町に、織田信長の没後、安土城下の商人などが移住しました。商人は全国へと活動を広げ、北は北海道から南はベトナムやタイまで進出したといわれています。当時まだ開発途上であった江戸にもいち早く店を出しました。

市内には、現在も旧西川家や旧伴家など八幡商人の屋敷が残っていて、その風情ある町並みは、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。そんな商家で残された資料は、勘定帳といった商人関係の古文書や、商売道具だけでなく、子女の人生儀礼



西川庄六家伝来の元禄時代から伝わるひな人形（旧伴家住宅）

にかかわるものもたくさん残されています。節句人形もそのひとつで、三月の桃の節句に飾られるひな人形は商家に残る資料のなかでもひとときわきらびやかです。当時のひな人形は、遊び（ままごと）を通して商人の妻としての振る舞いや礼儀を身に付ける女子教育の機会とされていました。

毎年2月から3月にかけて、近江八幡の旧市街地では、江戸時代から昭和までのそれぞれの家に伝わる貴重な節句人形が展示されます。市立資料館や築約三百年の国重要文化財「旧西川家住宅」では八幡の商家に伝来する多様なひな人形が、「旧伴家住宅」では西川庄六家伝来の江戸時代（元禄時代）からと伝わるひな人形も展示されます。

皆さんも、町なみ歩きのなかで八幡商人が伝えてきた文化や伝統を感じてみませんか。



御殿飾りひな人形（旧西川家住宅）

近江八幡節句人形めぐり  
まちなみに装うひなのほほえみ  
日程／2月8日(土)～3月29日(日)  
場所／市立資料館・旧西川家住宅  
旧伴家住宅（両館とも要入館料）  
URL <https://www.omih.com/>

広報おうみはちまんは、各自治会を通じてお届けします。また、各学区コミュニティセンターや図書館などの公共施設、郵便局、金融機関、セブン-イレブン・ファミリーマート各店舗などに置いているほか、市ホームページやマチイロ、マイ広報紙などでもご覧いただけます。

人口と世帯 令和2年1月1日現在  
( )は前月比

総数 82,072人(-65)  
男 40,332人(-53)  
女 41,740人(-12)  
世帯 33,926世帯(-32)

※外国人住民(39カ国・地域/1,519人)を含みます。

Facebook



YouTube



Instagram



マチイロ



マイ広報紙

